

第3回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 22日(月) 19時15分～21時15分		
市町村名	堀金村	グループ名	1
メンバー	(: 司会、○ : 記録者)		

1) 県提供資料の説明とそれに関する質疑応答 & 自由討論

- 広域道路整備基本計画における高規格道路の位置づけについて、高い交通機能を発揮する交流促進型道路＝自動車専用道路広域道路のうち地域活性化効果、妥当性、緊急性、重要性で選ばれる。高規格幹線道路が高速道路、地域形成型広域道路以下は一般国道、県道などが含まれる。
- 地域高規格道路より上のものは、すべて国庫補助事業に入る。
- 県内の高規格道路ではまだ完成したものはなく、伊那・木曽道路が工事中で、その他は計画路線または候補路線で未着工。松本系魚川高規格道路は、計画路線。近隣で完成している地域高規格道路は新潟県にある。
- Q：起終点は、波田町から系魚川市で松本市ではない。A：中部縦貫道と北陸道を結び、地域の循環型ネットワークを形成する道路である。松本地方生活圏と系魚川生活圏を連絡すると解釈している。
- Q：松本市内の交通状況を先に考えるべきではないか。A：市内の道路、アクセスについてはどうも後手になってしまう。
- 路線機能について流通、人的交流の活発化とあるが、小谷以北の道路は昔に比べかなり良くなっているが、はたして人的交流は活発化しているか。塩の道頃の方がむしろ活発だった。また、広域交流拠点相互の連絡とあるが系魚川からならば富山空港や新潟空港に行った方が便利だし、中部縦貫道も完成の目処すら立っていない状態だ。連携強化による地域集積圏の拡大とあるが、単に人口の集中だけではないか。
- 国道147号は交通容量が満杯であり、渋滞解消の効果があるといういが、今渋滞するのは梓橋や新橋など限られた場所で橋や交差点がネックになっている。そのため莫大なお金をかけて、新しい道は不要。
- 今までの道路行政は後手後手で、一つの道路に様々な機能が混在していた、したがって交通機能を分化する必要がある、通り抜けるだけの自動車を分離する高規格道路を作れば、一般道路はそれなりの機能が発揮される。
- 目的を持った道路を新設すればよいと言う考え方と今ある道路の拡張をすればよいという考え方の違いがある。
- 道路を作ると簡単にいっても、人の生活や人生を変える恐れがある。
- 高規格道路は都市計画法に基づいた道路でなく、本来は都市計画道路体型で決めていった方が一番良い。

第3回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 22日(月) 19時15分～21時15分		
市町村名	堀金村	グループ名	1
メンバー	(: 司会、○ : 記録者)		

- 一般道路としてバイパスを造ればそちらに新しく商店ができてしまい、既存の商店街は潰れてしまう。その点、高規格幹線道路であれば道路沿いに商店ができないので心配ない。
- 高規格道路を通せば何もかもが上手くいくような考え方は役所の縦割りの発想で、農業問題や商工業、文化、環境など様々な視点から考えなければならない問題であり、そのためには建設部だけでなく、広く関係各部署間で論議すべきである。
- アメリカでは4人に3台、西欧や日本でも2人に1台の自動車を保有しているが、自動車が1台増えるとアメリカでは約2反歩、日本でも約0.7反歩もの農地がアスファルト化されるという。国や県はいったい自動車の保有台数をアメリカ並にするつもりなのか。その辺の基本的な考え方を、長期的な展望に立って、行政はまず示すべきである。
- 30年前にすでに計画が始まって、それなりのプロセスを経てきたものであるから、そのことを尊重すべきである。
- 30年の間に道路整備は行われてきているので、当時と今とでは事情が違っている。
- 堀金村には今では公共交通が全くない。高齢化社会になり自分も年をとって運転できなくなった時に、移動する手段がなくなってしまい不安だ。
- もし高規格道路ができると大系線も廃止になるということも言われている。
- 道路造りについて行政は今まで住民の声は聞いてこなかった。区長や商工会の方の声だった。これからは行政主導ではなく、住民側からどういう道が必要かを提言して進めていく時代だ。
- 大町以北では半分以上の人が松系高規格道路に賛成というマスコミのアンケート結果もでている。
- 高規格道路に関して納得のいく必要性も、説明もない。
- Q: 災害に強い道路とうたっているが、あくまで災害とは土砂崩れなどの水害で、小谷以北に適用されることですね。A: そうです。Q: それでは大町以南で高瀬川堤防道路沿いに通してはという意見が聞こえますが、そんなところに通せば防災上危険性が高いのではないですか。A: 高瀬川沿いのルートは計画に入っていません。
- 災害に強いというのは、単に直接に災害を受けるのではなく、災害時のライフラインという意味もあるのではないか。
- 堀金村に観光客が増える必要があるのか、農業で成り立つ村であってほしい。
- Q: 交通量の予測で 断面が70000台で 断面では半分になってしまうのはなぜか。A: 国営アルプス安曇野公園へ行くための観光客が降りるので減ると言うことである。Q: 国営アルプス公園に行く車が1日35000台も来るということになる。8000人の村にそんな多くの車が通るなどという予測は常識で考えてもおかしい。Q: 交通量増加率を平成6年のデータを使用したせいである。

第3回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 22日(月) 19時15分～21時15分		
市町村名	堀金村	グループ名	1
メンバー	(: 司会、○ : 記録者)		

- 将来予測というものには係数をいくつにするかでいくらでも数値が変わってしまう。作りたいという意図で予測すればそのようになるのは当たり前で信頼のできるものではない。
- それでもこのような事業では予測データを示す必要がある。
- このような場に村の職員が来ていないのはおかしい。村政を進める上で村民の考えを知ることは必要で、一村民、一住民として参加して村民の声を聞いてほしい。
- 村は民間で言えばサービス業であるから、研修等もっと積極的に参加するべきである。
- このメンバーでこれ以上議論しても同じ意見しか出ない、一度他のグループがどのような議論をしているかを知る意味でも合同討議を開いてはどうか。違った視点から見ることもできて良いのではないか。
- 最終的に11月末に合同報告会を開くのであれば、他のグループでも論議が詰まれば前倒しで合同報告会を開いても良いのではないか。
- はじめに意見交換会に応募した67名のうち、第1回には42名しか参加しなかった。その後、各グループで議論が進んでしまい、出席する意志があっても出にくくなっているのではないか。今までの議事録、資料を送って内容を知ってもらい、もう一度声をかけてみたらどうか。

■ 配布資料

- ・ 第2回議事録
- ・ 概略ルート検討

■ 次回予定

- ・ 11月16日(金) 19:00～ 堀金村公民館第1,2講義室
- ・ 他グループの状況を確認の上対応する。

■ 今後の予定

- ・ 第3回議事録
- ・ 他グループの議事録

以上